2025年12月23日

2025年度 関西学院大学 海外客員教員（招聘Ａ）成果報告書

書式１　　（適宜行追加可）

受入担当教員	所属・職	教育学部・教授
	氏名	谷明信
海外客員教員	所属・職	University of Glasgow・ Research Fellow
	氏名	Graham D. Caie
招聘目的		1. 授業担当及び研究　(2. 共同研究)　3. 特別枠　（いずれかに〇）
招聘期間		2025年11月1日　～　2025年11月15日
成果報告 以下の内容を日本語で記載して下さい。 1.授業担当及び研究 (1)授業科目名 (2)授業担当の成果 (3)研究の内容 (4)研究の成果 2.共同研究 (1)共同研究の内容 (2)共同研究の成果 3.特別枠 (1)活動内容 (2)成果		本プログラムによるGraham D. Caie教授の招聘の目的は、大きく分けて以下の2つであった。1. 中世英語英文学研究の国際化、2. John Jamieson著『Etymological Dictionary of the Scottish Language』の共同研究に向けた準備。 1. 中世英語英文学研究の国際化と研究者交流 第一の目的である国際化に向けた取り組みとして、11月8日に関西学院大学梅田キャンパスでCaie教授の講演会・懇親会を開催し、関西を中心とする研究者と交流を図った。教授は「The Internationalisation of Medieval Studies」というタイトルで、中世学の本質的な国際性と、現代におけるデジタル化の重要性について講演を行った。 講演内容は以下の通りである。デジタル化による研究環境の変容： 中世学は、共通言語ラテン語を介した学者の往来に象徴されるよう、元々国際的かつ学際的な分野である。近年はデジタル化により史料へのアクセスが飛躍的に向上し、オンライン上のデータベースを通じた国際的なネットワークや共同プロジェクトがさらに加速している。このような中世学の発展は、デジタルという新たな道を得て、再び活発化した知の巡礼とも言うべき様相を呈しており、過去の遺産を世界中の研究者が共有する開かれた舞台を作り出している。 • 東日本への展開： 11月14日には関西学院大学東京キャンパスで、東日本の中世英語英文学研究者との交流会と懇親会を開催し、広範なネットワークの構築を図った。 • 次世代研究者との対話： 11月15日には、慶應義塾大学徳永聡子教授のご尽力で、同大学三田キャンパスにて「John Gower and Geoffrey Chaucer – friends or rivals?」と題した、Caie教授の講演が行われた。その後のランチ会などを通じ、貴重な交流の機会が持たれた。 2. Jamieson辞書に関する共同研究の進展: 第二の目的であるJamiesonの辞書についての共同研究の準備については、具体的な調査手順や、特にどのような点に注目をして調査を行うかについて議論を重ねた。その結果、概略的な方向性と研究方法が決定した。特筆すべき成果として、Royal Society of Edinburgh (RSE)の元副会長であるCaie教授より、RSEのアーカイブ資料の調査に関しても多大なる協力が得られることが決定した。

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。
＊本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます